

DI委員会トピックス

ヒアリとアナフィラキシーショック

特定外来生物のヒアリが、平成 29 年 5 月に兵庫県尼崎市で発見されて以来、平成 29 年 8 月 10 日現在、国内の 12 ヶ所で発見されている。

「特定外来生物」とは、外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定される。特定外来生物は、生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれる。

アリについては、平成 28 年 10 月 1 日現在、ヒアリの他、アカカミアリ、アルゼンチンアリ、コカミアリが指定されている。

ヒアリは、漢字で“火蟻”と表され、刺されると火傷のような激しい痛みが生じる有毒のアリである。南米原産で体長は 2.5～6mm 程度とばらつきがあり、体色は主に赤茶色、極めて攻撃性が強いとされている。毒に含まれる成分に対してアレルギー反応を引き起こす例がある。欧米においては、アナフィラキシー症例も報告されているため、ヒアリに刺された方がアナフィラキシー症状を引き起こした場合、アドレナリンを注射するなどの適切な救急処置をとる必要がある。

ヒアリの毒には、アルカロイド毒であるゾレノプシン (2-メチル-6-アルキルピペリدين) のほか、ハチ毒との共通成分であるホスホリパーゼやヒアルロニダーゼなどが含まれる。このため、ハチ毒アレルギーを持つ方は特に注意が必要だ。

●アナフィラキシーとは、「アレルギー等の侵入により、複数臓器に全身性にアレルギー症状が惹起され、生命に危機を与え得る過敏反応」をいう。「アナフィラキシーに血圧低下や意識障害を伴う場合」を、アナフィラキシーショックという。

アナフィラキシーの多くは、IgE が関与する免疫学的機序により発生し、最も多くみられる誘因は食物、刺咬昆虫（ハチ、蟻）の毒、薬剤である。

刺咬昆虫では、短期間に 2 回刺傷されるとアナフィラキシーを生じやすい。

ハチ毒成分のうち、アレルギー反応を起こす毒成分は、ホスホリパーゼ A 等の酵素類である。

●アナフィラキシーの薬物治療の第一選択薬はアドレナリンである（推奨度 B～C）。アナフィラキシーガイドラインでは、次のとおり記載されている。

・アナフィラキシーと診断した場合または強く疑われる場合は、大腿部中央の前外側に 0.1%アドレナリン(1:1,000 ; 1mg/mL) 0.01mg/kg を直ちに筋肉注射する。 ・経静脈投与は心停止もしくは心停止に近い状態では必要であるが、それ以外では不整脈、高血圧などの有害作用を起こす可能性があるため、推奨されない。 ・アドレナリン血中濃度は筋注後 10 分程度で最高になり、40 分程度で半減する。 ・アドレナリンの効果は短時間で消失するため、症状が続く場合は追加投与する。

第一選択薬であるアドレナリンが最優先であるが、第二選択薬には、H₁抗ヒスタミン薬、β₂アドレナリン受容体刺激薬、グルココルチコイドがある（推奨度 C）。

環境省のパンフレット「ストップ・ザ・ヒアリ」には、アドレナリン自己注射キット「エピペン」が紹介されており、今後の状況によっては、問い合わせ等の増加が予想される。

参考

- ・「ヒアリに刺された場合の留意事項について」（平成 29 年 6 月 23 日付け厚生労働省健康局がん・疾病対策課事務連絡）
- ・「ヒアリに関する対応について」（平成 29 年 7 月 19 日付け厚生労働省子ども家庭局保育課 他 事務連絡）
- ・厚生労働省ホームページ：ヒアリに刺された場合の留意事項について
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000171504.html>
- ・環境省ホームページ：ヒアリに関する諸情報について
<http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/fireant.html>
- ・「アナフィラキシーガイドライン」 一般社団法人日本アレルギー学会監修